

・ ディレクトフォーエス

ディレクトフォーエスでは、笹川平和財団 理事長（前国際エネルギー機関（IEA）事務局長）田中伸男氏 から国際エネルギー問題についての公演をいただいた。

現代、よくエネルギー問題が国際的な課題となっているが、どのようにすれば解決へと導くことができるのだろうか。

現在世界には、IEA と OPEC（石油輸出機構）という 2 つの機関がある。両者は対立関係にある。

日本はエネルギー資源に乏しく、石油を輸入する側の国である。だからこそ、石油を急に入手することができなくなるということがあれば経済は破綻してしまうだろう。日本が石油を入手するために手助けをしてくれている国がある。それは経済大国アメリカである。アメリカがホルムズ海峡を護っているからだ。イランの革命防衛隊の指揮官がホルムズ海峡を封鎖するのは一杯の水を飲むより簡単なことといわれている。石油の入手は安易にできるわけでもないのだ。そのうえ、アメリカは 2035 年には石油を必要としなくなるといわれているようだ。そうなるといつまでも日本が石油を得られるわけではないということがよく分かる。今後石油を多く必要とすると予想される国は、中国、インドである。

日本では首相がよく代わるが、そのような状況の中、頻繁に代わっているようではいけない。世界によく知ってもらうにはある一定の期間が必要となるからだ。

東日本大震災以来、日本では原子力発電にたいする考え方が変わった。福島第一原子力発電所の事故による被害は大きなものであり、一般の人は予想していなかったことだからなのだろう。だが、予想されていなかったわけではない。東北電力の女川第一原子力発電所、福島第二原子力発電所では事故はおこななかののではないだろうか。東北電力の女川第一原子力発電所は、そのような事故をあらかじめ予想し、通常よりも 10メートル高い所につくられたそうだが、福島第一原子力発電所の場合はそのようなことが考えてつくられたようではない。だから、この事故は人身事故であるともいわれているようだ。また、原子力発電所の規模にも問題がある。原子力発電所を設置するということは、その発電所が使われなくなる・立て替えなければならない、などといった状況になったときにゴミを出すことになってしまう。そのゴミはどう処分すればよいのだろうか…。そのようなときにその発電所の規模が小さければゴミは少なくなるという考えに行き着く。実際に「パンドラの約束」に出てくるような小規模な原子力発電所を設置するのであればその発電所から出るゴミは約 300 年あれば処分できると考えられている。このように原子力発電を完全否定することはできないのである。また、今の日本の原子力発電に対する基準は世界最高であると言われているようだ。そんな状況ではあるが、その基準をも満たす発電所がつくられているのだ。原子力発電に対する考え方は人それぞれではあるだろうが、様々な方向から物事をかんがえていかなければ、解決することは難しいだろう。

国際エネルギー問題を解決するのは安易なことではないだろうし、すぐに解決できる問題ともいえない。だが、日々確実にエネルギー資源は消費され続けており、地球の気温も上昇傾向にある（見方によっては、地球の気温の上昇は「エネルギー資源の消費＝CO2 排出」によるものではないとも考えられるそうだが…）。だから、急がなければならない。そのために日本に必要なことはまず、「人間関係を築いていける首相をもつこと」

である。世界との繋がりは重要なのである。

そして、日本に限らないことだが、「国際機関が人間関係を築くため、話し合いを進めていくため、実行するための準備をすること」が重要となってくる。科学技術の進歩、国際的な協力などがうまく組み合わさり、エネルギー問題の解決がなされる日が来ればいいと思う。

・ OB, OG との座談会

2 高 OB, OG との座談会では、主に東京大学在学中、出身の方々から多くのことを学ばせていただいた。(ずる賢くなっていい、実質と見かけ、迷ったら東京大学へ…など。)

まず、東大生について。東大生はとにかくメモを取るそうだ。なぜだろうか、それは自分の記憶に自信がないから。自分が忘れるのを忘れてしまうのが怖いのだそうだ。気が付けば常に持参しているノートにメモを取っているのだと聞いた。前まで灘高校にいて、現在東京大学にいらっしゃる方も、東大生はメモを取るとおっしゃったそうだ。

また、それは授業中のノートの取り方にも関係している。授業を復習するときノートは欠かさない。だからこそ、できるだけ授業を再現しやすいノートをつくる必要がある。授業を再現しやすい(記憶を呼び起こしやすい)ノートはどのようにすればよいか。それは、とにかく書くことなのだそうだ。授業中学んだどんなに小さなことでも書いておけば記憶を呼び起こすための足しになる。そして、自分自身の知識を増やすことにもなる。メモを取ることで、自分を変えていくのだと思う。

次に、各教科について。よく、得意科目を伸ばすべきだなどといわれているが、まずは苦手科目をつくらないことが先だと聞いた。もし受験のときに得意科目で失敗してしまうと点数が普段より低くなってしまふからである。(もちろん得意科目を伸ばすことはさらなる点数飛躍に繋がるが。)得意科目、苦手科目は人それぞれであるが、その中にも皆共通して伸ばしやすい科目というものがある。例えば、古典、漢文である。これは、誰でもやればテストの点数が取れる科目である。(それに対して現代文は人によって波がある。)苦手科目をつくらないためにはとにかく学校の問題集を解くことなのだそうだ。そしてそれもただ解けばよいという訳ではない。正確に理解していかなければならない。うまく解くためにも方法がある。1周解いただけでは何の勉強にもなっていない。どこが理解できていないのかを確かめただけなのだ。2周目は解けなかった所のみ解く。3周目も解けなかった所のみ解く。これを繰り返していけば確実に理解を深められる。解けた所を何度も繰り返すのは時間の無駄でしかない。勉強には効率も時間もどちらも必要なのだ。効率に少し近いが、実質と見かけについてのお話があった。授業に出ることは本当に大事なことか。とのことだった。授業に出て何も理解していなければ意味がない。それは、見かけだけ良いということである。まず一番大事なのは自分の理解度である。入試において役に立つのは自分の知識とその理解度なのだ。

最後に本当に自分がやりたい勉強をするべきだ。とのことだった。それまで理系できて、大学で文転された方もいた。興味は変わるものである。また、大学を休学して、企業された方もいた。今の目標はどうであろうが、勉強は必要だ。どの方も、後から学部を決めることのできる東京大学にとりあえず入るべきだとおっしゃっていた。